



9 バーナード城 百武兼行

明治十一年（一八七八） 油彩・カンヴァス
八〇・〇×一一〇・五

天保十三年に佐賀城下片田江に生まれた百武兼行（一八四二〜八四）は、八歳の時に後の佐賀藩藩主・鍋島直大とともに学び、生涯側近として仕える御相手役に任命される。明治四年に直大の英国留学に随行してロンドンへ渡り、一時は帰国するが再び明治八年にロンドンに渡り、直大夫人胤子の御相手役として、夫人とともにトーマス・マイルズ・リチャードソン Jr に油彩画の手ほどきを受ける。本図はその三年後、ロンドン滞在の最後に描かれたものである。

バーナード城は、イングランドの北に位置するダラム州に今も残る中世の古城である。佐賀県立博物館には本図のほぼ半分の大ささの下絵が残されており、本図が非常に入念な準備を経て描かれたものであることがわかる。絵の細部を見ていくと雲や川面の描写にまだ筆の硬さが認められるが、画面右端のアーチ型の橋に向かっていく遠近法を用いた自然な構図は、決して素人仕事ではなく、重厚な色調の画面からは格調の高さの片鱗もうかがえる。百武の修学の速さ、勘の良さには驚かされるばかりであり、まさにロンドン時代の学習の成果が集約された作品と言えよう。本図の制作後の話になるが、百武は明治十一年秋から一年間ほど、パリでレオン・ボナに師事して、さらに本格的な技術を身につけた。本図は明治十一年に制作され、鍋島直大の手許に納められたと思われ、その二年後に直大から献上された。直大は同十三年に特命全権公使としてイタリヤ駐在を命じられており、本図はそうした折に献上された可能性も考えられる。画面左下のサインは、幼名安太郎の頭文字をとった「y. Hiakutake 1878」。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に¹出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

近代の洋画家、創作の眼差し

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 52

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十二年十月三十日発行

© 2010, The Museum of the Imperial Collections